



京成電鉄＜9009＞、茨城県内を地盤とする関東鉄道をTOBで子会社化



京成電鉄は31日、茨城県内を中心に鉄道事業やバス事業を手がける関東鉄道（茨城県土浦市）に対し、子会社化を目的にTOB（株式公開買い付け）を実施すると発表した。買付価格は1株あたり500円。買付予定数は709万5544株で、予定通り買い付けられれば、出資比率は現在の30.09%（間接所有を含む）から約99%に高まる。買付代金は最大35億4700万円。買付期間は2019年8月1日から10月1日まで。

関東鉄道は茨城県内と千葉県の一部を事業エリアとする。同社は1922年に鹿島参宮鉄道として設立され、1965年に常総筑波鉄道と合併し、現在の社名となった。京成電鉄は旧鹿島参宮鉄道、旧常総筑波鉄道とそれぞれ資本関係があり、1992年以降、関東鉄道を持ち分法適用関連会社としている。

京成電鉄は関東鉄道とこれまで、営業・安全施策で情報交換、資材の共同購入、大規模自然災害時の復旧支援、高速バスの共同運行などの緩やかな連携を行ってきた。グループの経営体制を強化するためには子会社化を通じた強固な協力関係の構築が必要と判断した。

決済の開始日は10月8日。買付の決済は、みずほ証券。